

※文字の大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真 1) (表 1) などと文中に記載し、右ページに(写真 1) (表 1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ず A 3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

※事務局記入欄

【様式 2】

No. 108

エントリー学校名：福井県立武生高等学校

活動名
 新たな自主研修活動の形
 ～授業改善プロジェクトチームの活動～

解決すべき課題：
 大学入学共通テスト(以下新テスト)に対応すること、新学習指導要領対応すること、予測不可能な社会を生き抜くための力を育成・醸成をしていくにはどうすればよいか。その課題に取り組むべく、自然発生的に発足した授業改善プロジェクト(PT)が「アクティブラーニングの導入・研究」「ICT を活用した授業実践」「教科横断型授業の実践・研究」を目的に活動を始めて 3 年が経過した。

目標・方針
 PT の活動を校内で持続可能な形で広げ、教員や生徒に対し刺激を与えて続けることを目標とする。堅苦し過ぎず、くだけ過ぎず、ほどよい空気感の中で授業改善について語り合う。

活動内容
 ①毎月 1 回の PT 会議にて授業実践報告や自主研修を行う。(放課後 1 時間程度。自由参加) 写真 1
 ②毎月の職員会議の中で、メンバーが 5 分間の授業実践報告をする。(PT 会議内容の情宣)
 ③授業公開を積極的に行い、新たに指導力・指導観を養う。(報告することで、自らの考察に繋がる) 写真 3
 ④PT 通信の発行。年度末には活動報告書作成。 写真 4

活動の成果
 学ぶ教員によって学ぶ生徒が育つ
 PT 活動を通して、教員のチャレンジ精神の向上、教員間の信頼関係が深まり、研究意欲がかき立てられている。実践報告をしていく中で、各教科の学習内容で類似している部分があることが話題になり、教科横断授業を考えるきっかけになった。PT 会議がきっかけで多くの教科横断授業が実現した。教科横断授業を通して、生徒の興味関心、知的好奇心をかき立てる。各教科の目標のすり合わせに多少苦労はするが、何より教員側が楽しんでいる雰囲気が生徒の学ぶ意欲に繋がる手応えがある。 写真 2 資料 1

アピールポイント (アイデアや工夫)
 ・授業改善プロジェクトのモットーは、「無理をしない」「強制をしない」である。自分のできる範囲内で集まり、教員間の交流を行うことで、気軽に授業改善について話し合う場となっている。(自主性)
 ・「とりあえずやってみよう」精神で、ICT 活用、教科横断型授業、アクティブラーニングに取り組み、授業実践報告につなげている。(失敗を恐れない土壌)
 ・堅苦しくない自主研修の雰囲気、若手、中堅、ベテラン問わず参加者が集まる要因となっている。
 ・PT の活動内容を、PT 通信や職員会議で情宣することで、会に参加しやすい雰囲気作りを行っている。

写真 1 PT 会議の様子



写真 3 PT 会議での授業実践報告



写真 2 公開授業の様子

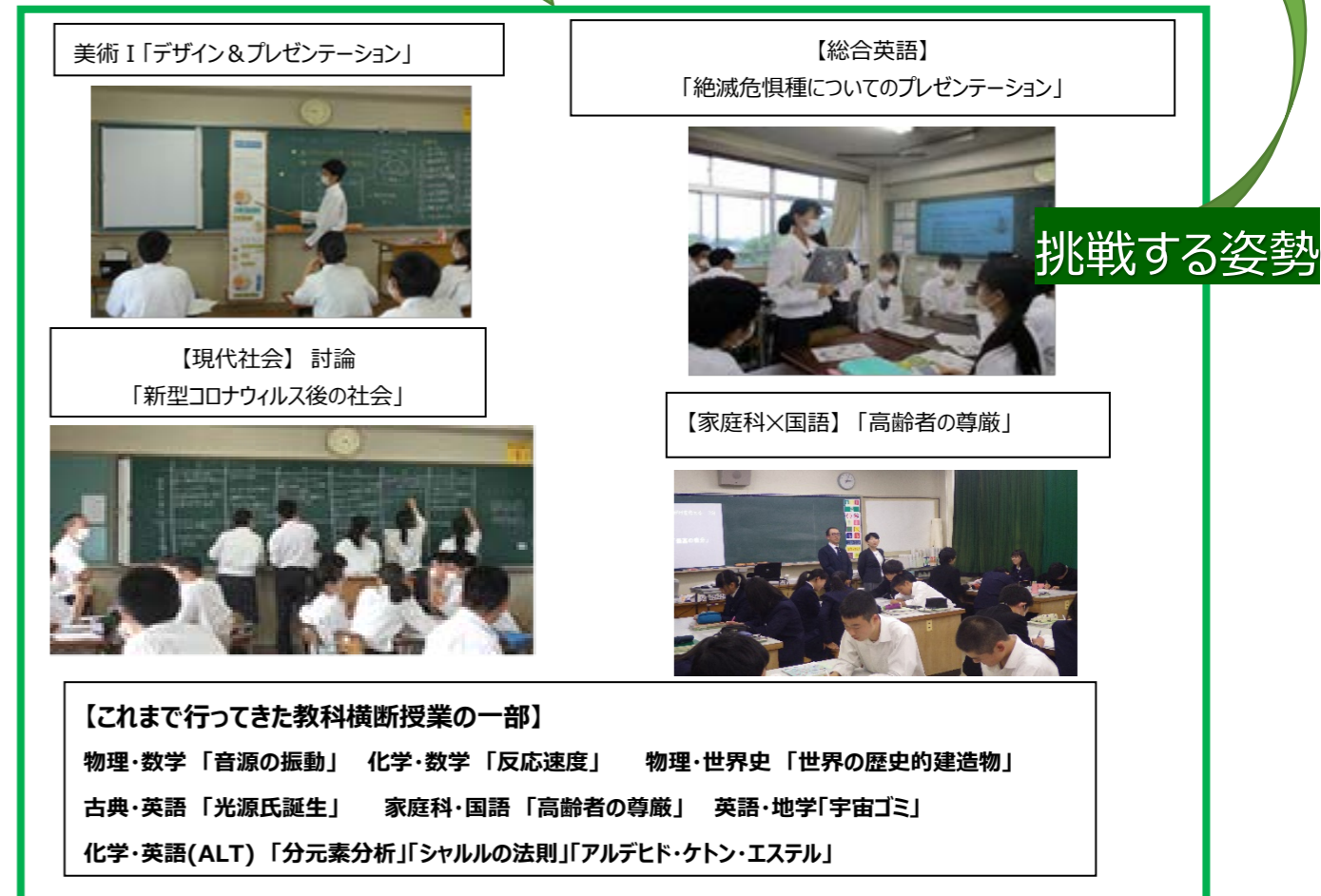


写真 4 PT 通信の発行



資料 1 PT 参加教員の声

職員会議
(5分以内で報告)

全体共有

1年間の
活動報告書

【60 代教諭】
 これまで教員同士の交流はあまりなかったが、今では普通。若い教員から刺激をもらっている。

【30 代教諭】
 PT に参加することで、自分の教科だけでなく、他教科のことも分かり、教科横断的な内容も授業に取り入れることができた。